

令和元年度瑞浪市地域づくり人材養成講座 第2回講座開催概要

日 時	令和2年1月17日(金) 13:30~15:30
場 所	瑞浪市総合文化センター 講堂
講 師	岐阜大学地域協学センター長 益川 浩一 教授
受 講 者	53名
主 催 者	岐阜県環境生活部県民生活課 瑞浪市まちづくり推進部市民協働課
内 容	<p>◆開会</p> <ol style="list-style-type: none"> 挨拶(瑞浪市まちづくり推進部長) 講座の趣旨説明(県担当者) 講師の紹介 <p>◆第2回講座</p> <p>平成24年度に実施した市主催のワークショップで、地域の将来のまちの姿について検討しました。その内容を元に、これまでの取り組みの振り返りとこれからどんなことに取り組んでいきたいかを地区ごとに分かれ話し合い、その後発表しました。</p> <p>◎平成24年度に検討した各地区の将来像と取組みたいこと ※詳細は市のホームページに掲載されています。 https://www.city.mizunami.lg.jp/docs/2014092916949/files/siminwork_siryuu_ura.pdf</p> <p>○瑞浪地区「土岐川に笑顔のあるまち」 (1)活性化するために、やる気を起こす みずなみの「かせ」を吹かせよう! (2)土岐川沿いの環境を活用して地域内外の交流を深めよう! (3)三連動地震に備えたまちづくり (4)地域の公民館を地域のサロン(みんなの集いの場)にしよう!</p> <p>○土岐地区「ふれあいのまち、土岐のまち」 (1)知り、そして伝える 土岐の自然と歴史 (2)まちかど楽校(楽しい学校) (3)農業と介護を活用した交流促進 (4)住民全員参加のまちづくり (5)土岐地区「まちづくり会社」の設立</p> <p>○明世地区「化石と自然に恵まれた地域のつながりで子育てする元気なまち『あきよ』」 (1)～子どもたちをみんなで育てる～ ○○の日を「明世地区ふれあいの日」にしよう (2)幼稚園の充実 (3)交通アクセスの利便と騒音・事故は「諸刃の剣」</p> <p>○稲津地区「いなつの宝で笑顔のまちづくり」 (1)地域(高齢者)のパワーをまちづくりへ (2)子どもも大人も楽しめる公園を作ろう! (3)休耕田を活かしたまちづくり</p> <p>○陶地区「陶器文化のまち支えあえる安心なまち」 (1)『大川狛犬の里』構想 (2)ソーシャルビジネスによる雇用創出 (3)リニア中間駅整備に伴う道路ネットワークの充実</p> <p>○日吉地区「自然と歴史が豊かで老人が元気で子どもが喜びUターンが出来るまち」 (1)日吉町を大きな家族にしよう (2)若者が農業をするまち (3)未来の生き方(地域のグループホーム、介護施設) 余生の生き方(各区にある集会場を使って楽しむ、話せる場所づくり)</p> <p>○釜戸地区「健康・長寿のまち釜戸」 (1)釜戸駅の存続と発展 (2)自然と共生する地域づくり (3)高齢者の生きがいづくり</p> <p>○大湫地区「自然と共に安全で住み続けられる大湫宿」 (1)集え若者「ものづくりの里大湫」 (2)憩いの宅老所(子どもたちとの共同施設) (3)移動手段の確保</p>



▲会場の様子

◎各地区の検討内容(抜粋)

※以下冒頭の「(数字)」は、平成24年度に検討した各地区の将来像と取組みたいことの項目番号。「(☆)」は、今回新たに検討した項目。

○瑞浪地区

- ・(1) 地区内に駅や国道があるという利便性を活かしたイベントや蛸の飼育の観光化、上山田地区での体験農業などを行っていききたい。
- ・(2) 健康ウォーキングや環境美化を目的とした蛸の飼育を行ってきたが、子どもや若者の参加が少ない。そのため子どもが主役のありある活動を実施や、新たに環境指標生物である日本ミツバチの試験飼育と調査を実施し、環境美化活動を行っていききたい。

○土岐地区

- ・(1) 歴史文化遺産を活かしたまちづくりに取り組んでおり、評価は100点満点。今後は大河ドラマ「麒麟がくる」と連動した取組みを行っていききたい。
- ・(2) ふるさとカルタを作成し、子ども達へ配布したり、楽しみながら参加してもらえる防災講習会を実施したりした。今後は、ふるさとカルタを多くの人に使ってもらえるようにしたい。
- ・(3) 社会福祉協議会と協力して実施しているものの、まちづくりとしての位置づけは検討中。
- ・(4) ふれあい夏まつりや青パト、青少年育成について頑張っており取り組んでいるが、今後はさらに青少年育成、夏祭りの充実化に取り組んでいきたい。
- ・(5) 学校や地域の見守りについて、今後も取り組んでいきたい。
- ・(☆) もっとしっかりした活動をしていくために、拠点となるコミュニティ施設を確保すると共に、学校と連携しながら活動を行い、コミュニティを外側と内側両面から充実させていきたい。

○明世地区

- ・(1) 明世ウォッチングで、化石博物館等を無料開放したり、中学生と語る会でサイエンスワールドを利用したりと、施設の有効活用ができています。今後は、新旧住民が交流できる機会を創出したい。
- ・(2) 離れたところにあった放課後児童クラブを小学校内に移転させ、安全面、利便性を向上させた。
- ・(3) 旧国道19号において高齢者や子ども達の安全確保をするため、市へ速度制限の見直し申請を行った。

○稲津地区

- ・(1) 高校生や大学生、子どもがいない若い世代の参加が少ないため、活動に協力してもらえるようにしたい。そのために若い世代が負担なく参加してもらえるような受入体制を整えていきたい。
- ・(2) 公園自体を整備はしていないが、「みんなが集まれ楽しめる場の提供＝公園」と考え、様々なイベントを実施してきた。今後は防災や健康等のテーマを取り入れながら取り組んでいきたい。
- ・(3) 休耕田を活用し、さつまいもづくりを実施し、毎年幼児から高齢者まで参加してもらっている。農業の専門的知識を持った人が減少してきているため、新たな人材を確保していききたい。

○陶地区

- ・(1) ギネス登録された狛犬と茶壺を観光資源として活かし、多くの人に訪れてもらえるような場所にしたい。そのため新たな案内看板の作成、狛犬や茶壺、登り窯を周遊できるような遊歩道の整備等を行い、地区外の人々が来て楽しめる場所にすると共に、広報活動を強化したい。



▲グループワークと発表の様子▲

○日吉地区

- (1)にじいろファームでのサツマイモの植付・収穫体験、里山体験学習、流しそうめん等を通して、世代間交流を行っている。また文化祭で、地域の人の発表の場を設けたり、中山道ウォーキング開催時に、中学生にボランティアをしてもらったりして、伝統文化の継承を行っている。様々なイベントを実施し、地区外の人にも多く参加してもらっているが、地区内住民への浸透状況は悩ましいところ。そのため地区内住民に対してのPRを強化し、多くの人に参加してもらえるようにしていきたい。

○釜戸地区

- (☆)「道の駅構想(2027年開駅予定)に基づく町の活性化」をキャッチフレーズに掲げ、関係人口を増やす取組みを行っていききたい。現在も、オリジナルキャラクター白虎と河童と竜のTシャツを作成、楽市や釜戸フォークジャンボリー、インスタコンテストの実施を通して、内外から魅力を発信しているが、地区外の参加者は多いものの、地区内の参加者や若者の参加が少ない。そのため地区への愛着心を高めるために、ふるさとの歌のCD作成や子ども会連合会と連携していくと共に、イベントを継続的に実施していききたい。また域学連携や釜戸宣伝隊(KMD12)の発足、案内看板とホームページの充実に取り組んでいききたい。

○大湫地区

- (1)芸術志向の若者であれば、転入してくれると考え、廃校プロジェクトや「オオクテ・ツクルテ」を実施してきた結果、世帯数や人口が増加した。また平成26年に転入対策委員会を発足させ、毎月会合を実施し検討してきた。転入者と地元住民の気持ちに温度差があるため改善させると共に、不動産業的なことにも取り組んで転入者を増やしていきたい。
- (2)ふれあい喫茶こぶし、ひよも、集まろう会等高齢者が集える場所づくりに取り組んできたが、遠方に住む住民の移動手段がなく、参加しづらい状況になっているため、移動手段の確保を行いたい。また学校と地域、他地域との連携を通して、活動の枠を広げていきたい。
- (3)利用者が限られているため、路線維持ができない可能性がある。そのため、利便性の向上と保険や安全対策の勉強・情報共有を行い、町内移動交通システムを整備したい。
- (☆)農業生産基盤の整備と拡充、景観協議会の立ち上げ、観光と地域をつなげる仕組みづくり等様々なことに取り組んでいきたいが、まずは一度立ち止って、5年10年30年先について、若者にも参加してもらいながら検討していきたい。

◎益川先生のコメント



▲講師の益川先生

今後まちづくりを進めていく上で、以下の6つの視点を大切にするとよい。

- ①一から始めることも必要だが、「無いものねだりではなく、あるもの生かし」をするとよい。
- ②課題は、一見するとマイナスに見えるが、見方を変えればプラスになる。いかにプラスにさせるかが重要。
- ③地域には様々な資源があり、多様な人を巻き込む必要がある。
- ④楽しみながら取り組まないと続かない。一方で、福祉や防災等取り組まなければいけない少し難しそうな事案もある。そのため、うまく結びつけて、楽しく取り組んでいけるとよい。
- ⑤既にたくさんの活動を行っているため、活動のスクラップ&ビルドをするとよい。
- ⑥「まちづくりは、絆づくり」。何か共同体験をすると人と人とのつながりができていく。絆づくりを進めれば、まちづくりにつながる。